道のはじまりの駅

元来、道の駅は地域資源を有する一般国道などの既に形成された道路に、人々の休憩スペースとして計画されてきた。しかし、それら資源が見えにくい地域では道の駅として成立しない現状がある。本提案の対象地である福岡県のアイランドシティは人工島として埋め立てられ、現在でも開発が進められる一方で、計画的に形成された街区や道には未だ人気は少なく、道の駅を設置するほどの資源も存在しない。また街区形成も整備が終了した地域と未開発の地域に分かれている。そこで本提案では、アイランドシティに独自の資源、文化を根付かせるべく、その拠点として未開発部中心に道の駅を設置した。

道の駅を通り抜ける風、運ばれ舞う草花、そして土地に刻まれる歩跡。
それらによって道がはじまり、地域が育っていく。

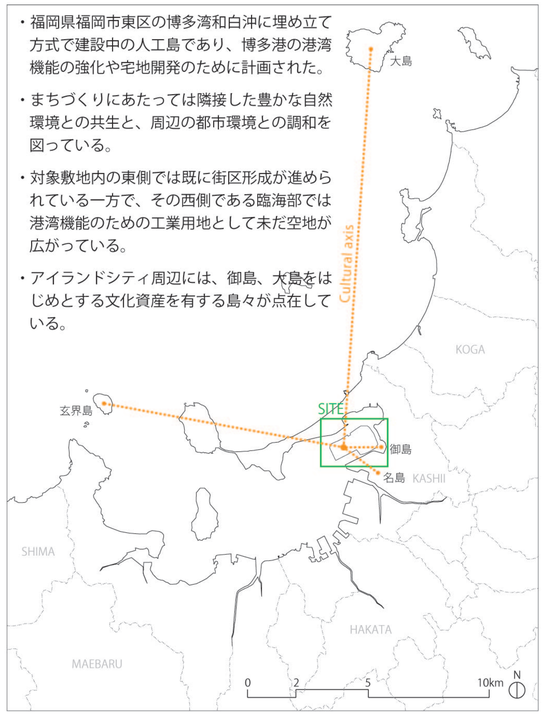
■ island city

・福岡県福岡市東区の博多湾和白沖に埋め立て方式で建設中の人工島であり、博多港の港湾機能の強化や宅地開発のために計画された。

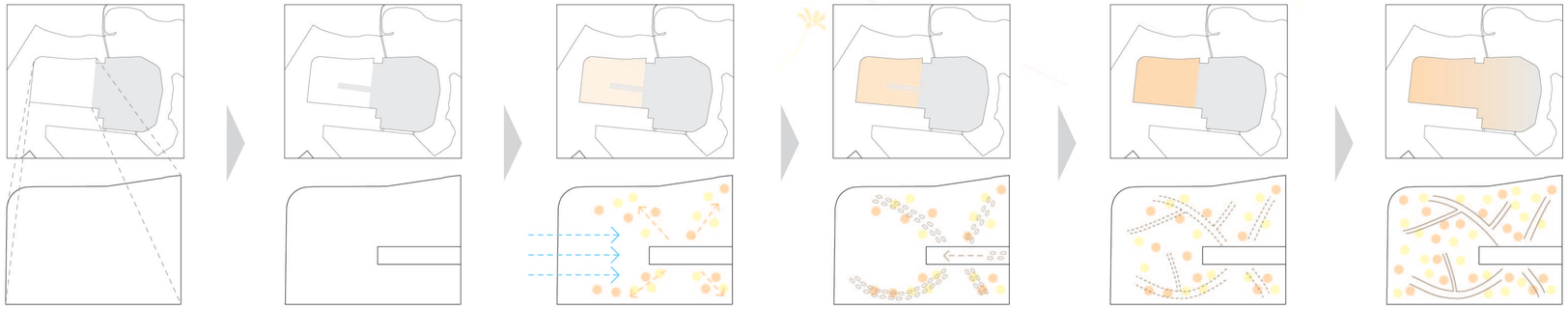
・まちづくりにあたっては隣接した豊かな自然環境との共生と、周辺の都市環境との調和を図っている。

・対象敷地内の東側では既に街区形成が進められている一方で、その西側である臨海部では港湾機能のための工業用地として未だ空地が広がっている。

・アイランドシティ周辺には、御島、大島をはじめとする文化資産を有する島々が点在している。



■ enhancing process



現在、東側は住宅地であり、西側は未開発地区である

東側の人道を西側中心部の道の駅まで延長する

道の駅は海風を受け、周辺を彩る花の発信の場所になる

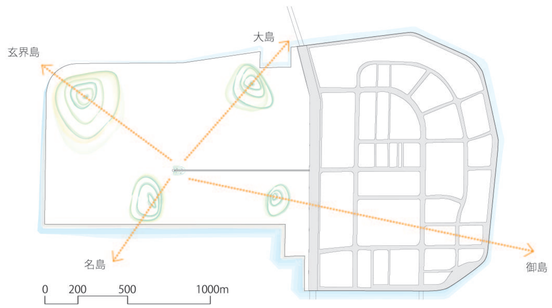
花の発信の場所でもある道の駅からは、人々の足跡が広がっていく

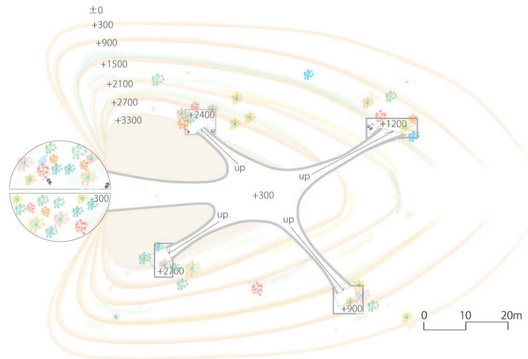
人の足跡は積み重なり、道の駅から新たな道が広がっていく

道の駅から道がはじまり、花が広がり、地域が育っていく

■ site plan

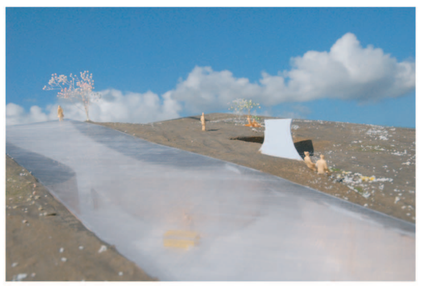
アイランドシティ西側に人工の道の終点として道の駅を設置することで、訪れた人々は道の駅から周囲の土を踏み固めて新たな自然な道を形成していく。その魁として道の駅から周辺の大島、玄海島、名島、御島と道の駅を結ぶ文化軸線上に 4 つのポイントとなる起伏を設けることで、人々を道の駅から周辺の起伏へと誘導する。また道の駅より吹き出す海風が、それら 4 つの起伏にちょうどぶつかることで、各起伏には色とりどりの花々が広がっていく。道の駅の内部空間は、風が通り抜けやすいように曲面形状とすることで、人々の視線も外部へと誘導される。また人々が外部へ出たときに、周辺の環境をより印象的に見せるために、道の駅中心部から出口に向かって登っていくスロープ形状とした。





真っ直ぐにつづく道、その突端は…。

道の終点。眼下に広がる大きなお花畑、360 度の眺望。



周辺では草木が風に舞い、人々がたわむれる。

地面には歩いた人の足跡が刻まれる。新たな道のはじまり。

駅の内部は周辺の山に向かって風がぬける線形。

ここは道のはじまりの駅。風や草木と共に地域が育つ場所。